

『沙界怪談実記』にお連れします



15th Anniversary (2009-24)

ナカノシマ大学2024年7月講座

堺で江戸中期に生まれた怪談本

7/18(木)

18:00~19:30

会場 大阪府立中之島図書館

(3階多目的スペース)

受講料 2,000円(小学生以下1,000円)

定員 60名

講師 陸奥 賢 (観光家、コモンズ・デザイナー、社会実験者)

主催 大阪府立中之島図書館
(指定管理者ShoPro・長谷工・TRC共同事業体)

企画協力 ナカノシマ大学事務局
(株式会社140B)



空告逆浪行話

明和9年(1772)夏の夜、錦ノ町農人町で大風が吹き、群衆は「津波だ!」と大パニックに。実は人をたぶらかす狐の仕業だった

大小路浜無首死人

大小路の浜に上がった、上等な衣類を身に着けた首のない旅人の死骸。道頓堀で流行している狂言は、この首無し死体のことだった

大蝦蟇霊慢人惱

甲斐町の木綿屋の主人は家に棲みついた大ガマに悩まされ、海に捨てた。その霊が主人に取り憑き、高熱を発生し、うわごとを口走る……



左/享保20年(1735)発行の「改正堺繪圖綱目」。表記された町名のほとんどは変わっていない 右/現代語訳(天羽孔明)の『沙界怪談実記』序文 上/陸奥賢さんのガイドは外国人観光客にも人気だ



先端産業と文化の都だった近世の堺に、「何じゃそら!?!」な怪談が続々と……

「堺はかつて国際貿易港として栄えたけど、大坂夏の陣で焼かれて衰退した」なんて思いませんか? いえ、幕府の全面支援で復興は早かったんです。そして線香、庖丁、銀細工、染色、昆布加工、酒造、和菓子、三味線と、今も続く産業がこの時期、一気に花開きます。環濠に囲まれた東西約800m、南北約3kmのエリアは、大坂や京、江戸と並ぶ都会でした。そんな街ゆえに「謎めいた話」が次々生まれました。250年前の怪談を伝えるのは、まち歩きガイドで大人気の陸奥賢さん。暑い季節、涼しくなるお話にぜひご参加を!

〈講師からのメッセージ〉

『沙界怪談実記^{*1}』は安永7年(1778)に「鉄方堂」という謎の人物が書いたもので、堺のさまざまな場所で起きた怪異な出来事が49編(序文を入れると50話)収録されています。近代の怪談は、「登場人物が禁忌(行ってはならぬ場所など)を犯したから呪われる」といったような「因果律的」な話が数多くありますが、『沙界〜』にはそういう「因果律」がほぼありません。唐突に、訳もなく、堺の街なかに奇妙不可思議な怪異が起こり、淡々と事の顛末が記述されます。それを考えると怪異は「自然」「日常」のものであり、近世の堺の人々は飄々と「怪異と共に生きていた」ようです。これらの怪談を元にして毎年、堺では「沙界妖怪芸術祭^{*2}」が行われ、その中で僕は「沙界怪談まち歩き」のガイドをしています。今回は、『沙界怪談実記』の怪異をご紹介します。その発生場所もお教えします。覚えてもらって夏の夜はぜひ、「沙界怪談まち歩き」をしてみてください。

*1 岸和田市流木町の称名寺の住職・出口神暁(1907~1985)が収集していた大阪の郷土資料(鬼洞文庫と呼ばれる)の中にあっ

*2 主催/濱田さち・妖精妖怪アートサロン「イルミタイ」

むつ・さとし 観光家、コモンズ・デザイナー、社会実験者。1978年大阪・住吉生まれ、堺育ち。2007年に堺のコミュニティ・ツーリズム企画で地域活性化ビジネスプランSAKAI賞受賞(主催・堺商工会議所)。2008~13年大阪あそび(2012年に観光庁長官表彰受賞)プロデューサー。大阪七墓巡り復活プロジェクト、まわしよみ新聞(読売教育賞最優秀賞受賞)、死生観光ランプなどを手掛ける。2023年4月より福島県の「いわき時空散歩」プロデューサー。著書に「まわしよみ新聞をつくらう!」(創元社)

→受講申込は、こちらのQRコードからナカノシマ大学のWEBで受付します。

※次回は8月9日(金)18時予定……「遊び場」は自分から作る面白い〜アメ村、FM、そして……

講師=MARK'E(マーキー/DJ)

